様式2

# 都市再生整備計画　事後評価シート

## 越後山地区

平成24年3月

埼玉県和光市

# 様式２－１　評価結果のまとめ

| 都道府県名 | 埼玉県 | 市町村名 | 和光市 | 地区名 | 越後山地区 | | 面積 | 15.6ha |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 交付期間 | 平成19年度～平成23年度 | 事後評価実施時期 | 平成23年度 | 交付対象事業費 | 488百万円 | 国費率 | 0.4 | |

## 1）事業の実施状況

| | | | 事業名 | 削除/追加の理由 | 削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 |
|---|---|---|---|---|---|
| 当初計画に位置づけ、実施した事業 | | 基幹事業 | 【土地区画整理事業】越後山土地区画整理事業 | | |
| | | 提案事業 | 【事業活用調査】事後評価アンケート、地区景観計画策定、地域防災計画策定<br>【まちづくり活動推進事業】まちづくりプロジェクト・まちづくり委員会、地域「安心安全」推進活動、地域ふれあい活動、PR活動 | | |
| 当初計画から削除した事業 | | 基幹事業 | ①【公園】第１公園（仮称）、【地域生活基盤施設】地域防災施設、<br>②【高質空間形成施設】電線類地中化施設、<br>③【高次都市施設】地域ふれあいセンター | ①②③事業期間内の施行が困難のため、第１回計画変更において削除 | ①指標3の達成状況に影響を与えるが、数値目標は据え置く。<br>②指標1、3の達成状況に影響を与えるが、数値目標は据え置く。<br>③指標2、3の達成状況に影響を与えるが、数値目標は据え置く。 |
| | | 提案事業 | なし | － | － |
| 新たに追加した事業 | | 基幹事業 | なし | － | － |
| | | 提案事業 | なし | － | － |
| 交付期間の変更 | | 当　初 | 平成19年度～平成23年度 | 交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響 | － |
| | | 変　更 | なし | | |

## 2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

| 指　標 | | 単位 | 従前値 | 基準年度 | 目標値 | 目標年度 | 数　値 モニタリング | 数　値 評価値 | 目標達成度 | 1年以内の達成見込み | | 効果発現要因（総合所見） | フォローアップ予定時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 指標1 | 定住人口 | 人 | 400 | 平成18年度 | 600 | 平成23年度 | 527 | 552 | △ | あり<br>なし | ● | 土地区画整理事業により良好な住宅地の形成が進むとともに、事業によって生み出した宅地を活用したイベントが計画されるなど、地域コミュニティの形成が促進され、人口が定着しつつある。また、歩道整備等により、住民が安心して歩ける交通環境が形成されている。 | 平成24年4月 |
| 指標2 | イベント参加者数 | 人 | 0 | 平成18年度 | 180 | 平成23年度 | 563 | 1,348 | ○ | あり<br>なし | | 秋の収穫祭及び夏祭りへの参加者は年々増加しており、着実に地域に定着している。また、定期的にまちの情報を地域に発信することにより、まちづくりへの参画意欲を高め、主体的にまちづくりに参加する住民が増えている。 | － |
| 指標3 | 定住者による満足度調査 | % | 20 | 平成18年度 | 60 | 平成23年度 | － | － | － | あり<br>なし | | 従前値と目標値の計測手法が異なり、事業前後の比較検証ができない指標となっているため、本指標は無効とした。 | － |

## 3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

| 指　標 | | 単位 | 従前値 | 基準年度 | 目標値 | 目標年度 | 数　値 モニタリング | 数　値 評価値 | 目標達成度 | 1年以内の達成見込み | 効果発現要因（総合所見） | フォローアップ予定時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| その他の数値指標1 | 地区内清掃・防犯パトロールの実施回数 | 回 | 0 | | | | 23 | 37 | | | 定期的にクリーンパトロールを実施することで、地区の景観が保たれるとともに、地域の防犯性が高まっている。 | 平成24年4月 |
| その他の数値指標2 | 地区に対する満足度 | % | 25.1 | | | | － | 42.5 | | | 土地区画整理事業により快適な居住環境の形成が進むとともに、イベント等の実施により地域コミュニティの形成を促進した結果、まちづくりに対する住民の理解が進み、評価も上がっている。 | － |

## 4）定性的な効果発現状況

・夏祭りについては、住民から「楽しみにしている」「年々規模が大きくなって盛況である」「模擬店を出したい」等の声を頂くことができた。
・夏祭りに事務局として参加している住民からは、回を重ねるごとに企画提案や今後の運営について積極的に発言して頂くことができた。

## 5）実施過程の評価

| | 実施内容 | 実施状況 | | 今後の対応方針等 |
|---|---|---|---|---|
| モニタリング | モニタリングシートの作成 | 都市再生整備計画に記載し、実施できた<br>都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した<br>都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | ● | 今後も引き続き、土地区画整理組合と調整しながら事業の進捗状況を確認する。 |
| 住民参加プロセス | ①公園づくりワークショップ<br>②各種イベント等の開催（夏祭り、秋の収穫祭）、住民活動(クリーンパトロール(防犯パトロールを兼ねた清掃活動）の実施 | 都市再生整備計画に記載し、実施できた<br>都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した<br>都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | ①② | ①今後も住民意見を活かしたまちづくりを推進する。<br>②今後も引き続き活動を継続させるとともに、イベント内容の充実化を図り、より地域のコミュニティ形成に寄与できるよう支援していく。 |
| 持続的なまちづくり体制の構築 | ①「越後山・緑まちづくり推進連絡協議会」の立ち上げ<br>②住民発意による「夏祭り」の開催 | 都市再生整備計画に記載し、実施できた<br>都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した<br>都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | ①② | ①各自治体を通じて「越後山・緑まちづくり推進連絡協議会」の活動を支援する。<br>②今後は土地区画整理事業で生み出される公園に会場を移し、イベント内容の充実化を図り、事業後も地域へ定着するイベントへ発展させる。 |

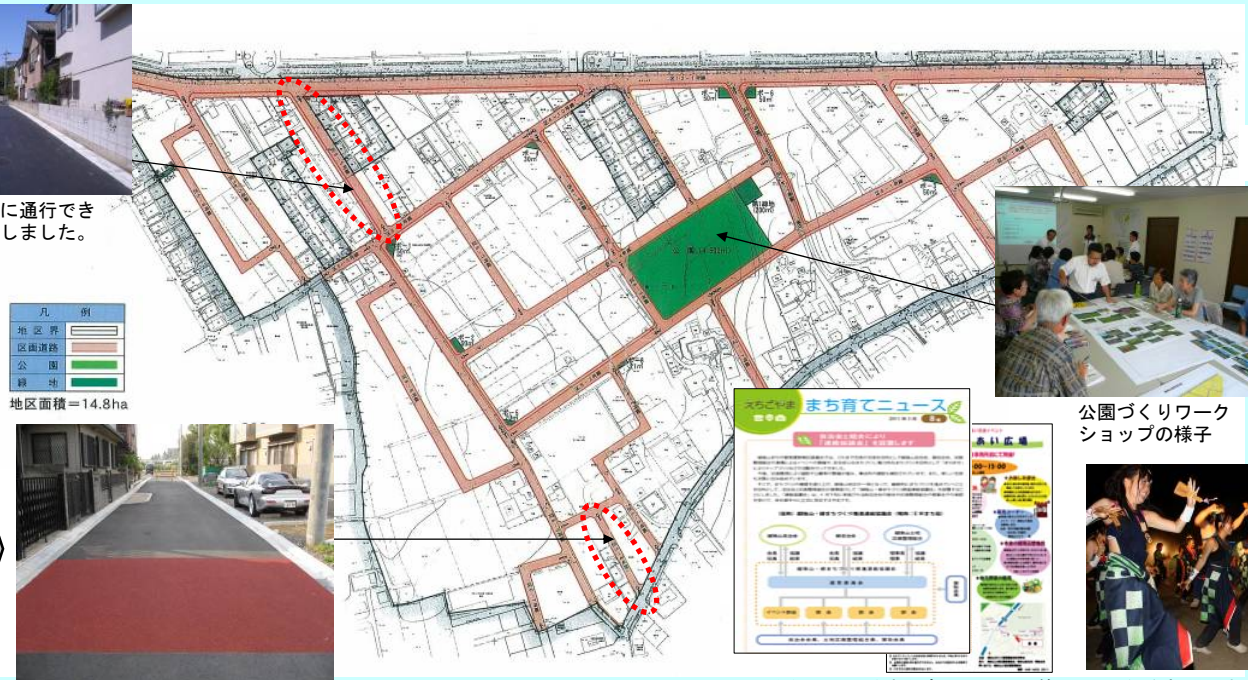
## 様式２－２　地区の概要

越後山地区（埼玉県和光市）　都市再生整備計画事業の成果概要

| まちづくりの目標 | 目標を定量化する指標 | | 従前値 | | 目標値 | | 評価値 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **大目標：安全で快適な居住環境の形成とあわせて、新旧住民との交流を深めるためコミュニティ機能の充実をはかり、継続的なまちづくりを実現する。**<br>目標１：新住民の受け皿として、公共施設整備改善をはかるとともに地域住民が主体となった景観づくりを実現し快適な居住環境を目指す。<br>目標２：総合的な面整備による防災性・防犯性の向上を実現し、安心・安全を心から実感できる地域づくりを目指す。<br>目標３：新旧住民のふれあいの拠点を創出するとともに、本事業をきっかけとした地域住民による「まちの管理」「コミュニケーションづくり」が継続的に維持される地域づくりを目指す。 | 定住人口 | 単位：人 | 400 | H18 | 600 | H23 | 552 | H23 |
| | イベント参加者数 | 単位：人 | 0 | H18 | 180 | H23 | 1,348 | H23 |
| | 定住者による満足度調査 | 単位：％ | 20 | H18 | 60 | H23 | － | H23 |
| | 地区内清掃･防犯パトロールの実施回数 | 単位：回 | 0 | H18 | － | H23 | 37 | H23 |
| | 地区に対する満足度 | 単位：％ | 25.1 | H18 | － | H23 | 42.5 | H23 |

保留地に住宅の建築が進んでいます。

歩行者が安全に通行できる歩道を整備しました。



クリーンパトロールを定期的に実施しています。

公園づくりワークショップの様子

公園の整備イメージ
（公園は来年度整備予定）

住宅地への車両通り抜け防止のため、ドライバーからの視認性がよいカラー舗装を行いました。車の減速効果もあります。

発行しているまち育てニュース等

たくさんの地域の方々で賑わう平成22年の夏祭り

| | |
|---|---|
| まちの課題の変化 | 土地区画整理事業の進捗により宅地や道路の整備が進んだが、引き続き良好な住環境の形成が必要であり、地区の特徴を活かした市街地の景観が創出されていない。<br>清掃・防犯パトロールや防災訓練が定例的に行われるようになり、安心して生活できる地域づくりが進むとともに、地域への愛着心も啓発されているが、災害への備えが十分とは言えない。<br>地区内に狭隘道路など交通利便性が低い箇所が存在し、引き続き対応していく必要がある。<br>道路については、歩道整備等による歩行空間の改善により、歩行者の安全性が高まっているが、まだ地区内道路の中に安全に歩行できない箇所が存在している。<br>夏祭りや秋の収穫祭といったイベントや住民活動により住民同士のコミュニティが形成されているが、住民同士の交流や住民活動の場となる施設がない。 |
| 今後のまちづくりの方策<br>（改善策を含む） | 良好な住宅地形成を促進するとともに、地区に不足している機能を補完し、生活環境の質を向上させる。また、地区の特徴である農地等を活かした魅力的な市街地を形成する。<br>定期的な防災訓練や防犯活動の継続により、住民の防災･防犯意識の向上を図るとともに、十分な備蓄や装備を確保し、地域の防災体制を強化する。<br>車両のスムーズな通行やすれ違いが可能となるよう狭隘道路の解消を図るとともに、住宅地の生活道路に通過交通が入り込まない道路ネットワークの形成を図る。<br>歩行者が安全に通行できるだけでなく、快適に通行できる空間形成を図る。また、交通量の多い道路や今後車両交通の増加が懸念される道路については、歩道整備等により歩行者の安全を確保する。<br>地域のイベントをさらに発展させることにより、地域への愛着を向上させ、コミュニティの醸成を図るとともに、住民がまちづくりに参加しやすい環境づくりを進める。また、住民同士の交流を促進し、住民活動の拠点となる場づくりを推進する。 |